

主な講師

生田 英輔さん

大阪公立大学都市科学・防災研究センター 教授

居住安全工学を専門として、地震時の人的被害、コミュニティ防災、防災人材育成等が研究テーマ。東日本大震災、熊本地震、能登半島地震等の被災地においても住宅被害、避難行動、仮設住宅等を調査し、災害の実態解明と防災・減災の為に研究・教育・実践活動に取り組む。

浅野 幸子さん

減災と男女共同参画研修推進センター 共同代表
早稲田大学地域社会と危機管理研究所 招聘研究員

阪神・淡路大震災被災地での4年間の支援活動を契機に防災に取り組む。その後も市民団体で働きながら大学院に進学。博士（公共政策学）。専門は災害社会学、地域防災、災害とジェンダー・多様性。福祉防災認定コーチ。内閣府「避難所運営ガイドライン」「男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン」など国・自治体の政策にも関わる。

竹本 記子さん

ナラティブ・エナジー 代表
NPO法人日本ファシリテーション協会 フェロー（元会長）
企業や行政・教育機関でのファシリテーションを活用し、対話の場づくりや企業研修（DEI 推進、心理的安全性、ファシリテーション研修などヒューマンスキル）や大学生をはじめ幅広いキャリア開発を行っている。監修本：知っておけば怖くない ファシリテーション超入門 現在、阪南大学・帝塚山学院大学非常勤講師。

宗片 恵美子さん

NPO法人イコールネット仙台 常務理事
2003年、男女共同参画の推進をめざすイコールネット仙台の設立に関わる。東日本大震災以降、避難所・仮設住宅の支援活動・調査活動に取り組み、女性防災リーダーの育成も行った。その後、避難所運営に関わるワークショップ、地域防災力向上に向けた各種講座を継続的にを行っている。仙台市 震災復興検討委員、内閣府中央防災会議専門委員等を経て、2024年、新潟県 能登半島地震を踏まえた防災対策検討委員等を務める。

関軒 明宏さん

七尾市矢田郷地区まちづくり協議会 事務局長
元矢田郷地区コミュニティセンター避難所 運営責任者
能登半島地震では、発災から矢田郷地区コミュニティセンター避難所で252日にわたり運営責任者として活動を行った。現在は、平常に戻った矢田郷地区コミュニティセンターで能登の復興をめざして生活に根付いた地域課題の解決策を共創しようと「YATAGOU ビレッジセカンド大学」などに取り組む。

増田 裕子さん

淀川区新東三国地域活動協議会 副会長
防災士
淀川区新東三国地域福祉活動協議会副会長として、誰もが安心して暮らせるまちづくりをめざして活動を行うとともに、防災士の資格を活かし、地域防災リーダーとして防災計画づくりなども行っている。大阪公立大学都市科学・防災研究センター客員研究員として、コミュニティ防災や女性と防災について研究。

笠井 あゆみさん

一般社団法人あおぞら湯 代表理事
子育て支援サークルとして立ち上げた「あおぞら湯」を2018年に法人化。子育て世代が主体となって共生していく「コミュニティ」を育てている。大阪市地域子育て支援拠点事業実施施設「中津つどいの広場ぐうぐう」「豊崎つどいの広場ぐうぐう」や、「大阪北区ジシン本」事務局を運営。2016年から「あおぞら防災ママ認定講座」を実施している。

沢田 薫

一般財団法人大阪男女いきいき財団 理事兼事務局次長
横浜市女性センターを経て、大阪男女いきいき財団の前身・大阪市女性協会の創設と共に入職。産官学民と連携し、男女共同参画、ジェンダー平等の推進に取り組む。2015年クレオ大阪中央館長、2021年事務局次長、2022年10月から現職。夕陽丘基金事務局長、国連ウィメン日本協会大阪副会長も務める。

本事業は、「フェリシモ もっとずっときっと基金」と大阪男女いきいき財団「女性のチャレンジ支援基金」を活用した公益活動として実施します。

「フェリシモ もっとずっときっと基金」は、「東日本大震災 毎月100円義援金」から2021年5月に名称を変え、国内で発生する災害からの復興・復旧、さらには防災や減災のための、お互いに守り、助け合う取り組みに活用される基金です。

大阪男女いきいき財団は、公益性の高い事業を継続的・安定的に展開するため、2011年に「女性のチャレンジ支援基金」を創設しました。基金事業として、女性のリーダーシップ育成、困難な状況にある女性への支援など様々な事業を実施しています。これからも大阪・関西の女性たちに寄り添いながら、チャレンジを支援する事業を継続的に展開していきます。

女性防災リーダーが拓く安全で安心な未来プロジェクト

地域防災女性ファシリテーター 養成講座2025

女性のリーダーシップやジェンダー平等・多様性の視点、災害や防災、ファシリテートの基礎知識に加え、避難所開設訓練、神戸でのフィールドワークなどの体験型のプログラムを中心としています。

防災をきっかけに女性リーダーを軸として、誰もが自分事として地域社会づくりに関わり、平時も災害時も安全・安心に暮らすことのできる地域社会を一緒に創っていきませんか。

